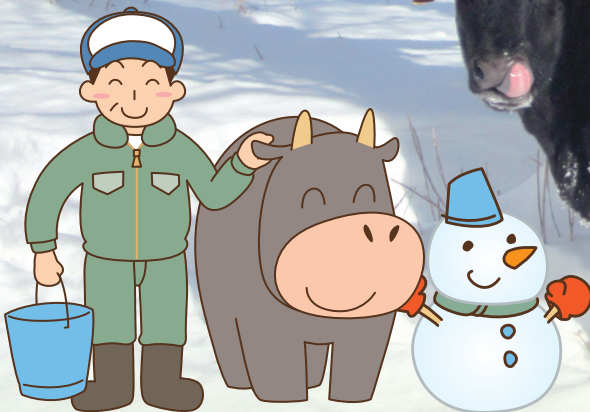


寒くても牛イキイキ

屋外飼養で ラクラク増頭!



黒毛和種繁殖農家の皆様へ 冬に親牛を外で飼ってみませんか!

通常、牛の放牧は夏から秋の期間だけです。冬から春にかけては、畜舎の中で牛を飼うことから、頭数に応じた規模の畜舎が必要とされてきました。そのため、頭数を増やすためには畜舎を拡大するコストが必要となる上に、労力や作業時間も大幅に増えます。

しかし、「寒さに強い」という牛の特性を活かして、冬の間も外で牛を飼えば、畜舎の拡大がいらなくなり、管理作業の省力化にもつながります。

冬季の屋外飼養で増頭・低コスト経営を目指しましょう

せまい!!
臭い!!
病気になる~

牛を増やせない
手間がかかる
子牛を飼うスペースが無い



★ 牛は寒くても意外と平気だよ

■ 寒さの中でも牛はリラックスしています

心拍数の変動から見ると牛のリラックスの度合いは、寒い冬（平均気温 -2.9°C ）に外で飼育する方が、暑い夏（平均気温 25.7°C ）に飼育するよりも高くなりました。

■ 免疫（病気への抵抗性）への影響はあまりありません

冬季に屋外で飼われている牛の血液中の免疫に関連する成分（白血球の数や異物を攻撃する能力）は屋内で飼われている牛のものと違いがありません。



みませんか？

check /

屋外で飼った母牛と屋内で飼った母牛の繁殖成績や子牛の成長、かかった作業時間を比べました。

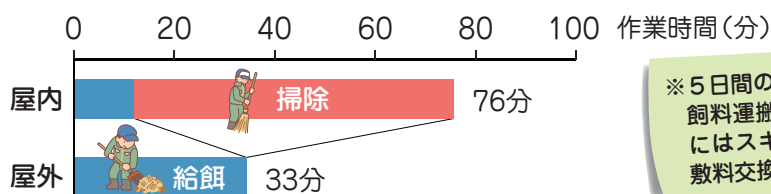
期間と気温 … 11月～翌年3月 (-20.4℃～15.1℃)
 対象牛 … 黒毛和種妊娠牛 (妊娠2ヶ月～9ヶ月)
 エサ … チモシー乾草、コーンサイレージ
 (屋外は気温に応じて増飼)
 飼養場所 … 屋外：デントコーン収穫後の畑地
 屋内：木造フリーバーン牛舎
 ※分娩1ヶ月前には屋内に収容
 ※子牛は4日齢で母子分離し、単飼で人工哺乳

● 繁殖成績や子牛の成長に大きな差はありません

屋外			屋内	
22.1 日		発情回帰までの日数	21.9 日	
88.7 日		受胎までの日数	82.4 日	
1.5 回		受胎までの授精回数	1.8 回	
雄 雌		子牛の生時体重 (kg)	雄 雌	
34.6 29.6		日増体量 (kg/日:0-12週)	37.6 31.0	
0.70 0.71			0.67 0.66	

● 作業時間が短くなります (約1/2～1/3)

敷料交換や除糞が不要になり、作業時間が短くなります。また、敷料代も節約できます。



※5日間の総時間。作業人員1人、飼料運搬距離は同じ。飼料給与にはスキッドステアローダー、敷料交換にはトラクタを使用。

★ 外で快適に飼うポイント

■ 泥濘化を防ぎましょう

特に雪解け時期にはエサ場の周りが泥濘化します。エサ場にする場所は、あらかじめ砕石と山砂に入れ替えたり、舗装する等の対策工事をするほか、翌春に耕起する飼料畑を利用することも検討しましょう。

■ 水を凍らせないようにしましょう

水を掛け流しにすることで凍結を防ぐことができます。取水口、排水口の凍結に注意して、十分な流量を確保しましょう。



実施している 農家さんの声



E・Mさん（宮古市）

黒毛和種繁殖雌 12頭飼養
1.3haの草地に3～4頭を冬季屋外飼養
1日1頭あたりロールサイレージ
飽食+配合飼料1kgを給与

Q 始めたきっかけは？

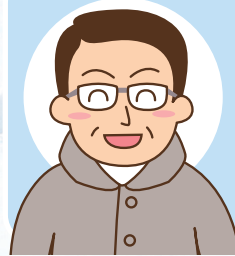
A 牛舎内の過密状態の解消と作業（除糞等）の省力化、子牛の飼養スペースの確保を狙って取り組みました。

Q やってみて良かった点は？

A ・除糞作業を省力化することができ、敷料の使用量も減りました。
・牛舎内の過密状態が解消され、子牛スペースを十分確保できるようになりました。
・エサ場周辺は凸凹に凍結するものの、牛体（腿）に糞ヨロイが付くこともなく、牛はそれほど寒そうではありません。

Q 思い通りにいかなかった点は？

A ・舎飼時に比べ、給与した粗飼料のロスがありました。
・屋外で飼う牛を妊娠の安定した時期に限ったため、思ったよりも屋外飼養できる頭数が少なかったです。
・飲水が凍結しないような工夫が必要でした。



O・Mさん（久慈市）

黒毛和種繁殖雌 12頭飼養
1.2haに12頭を冬季屋外飼養
1日1頭あたりロールサイレージ
飽食+配合飼料1kgを給与

Q 始めたきっかけは？

A 他の仕事もあり、作業時間を少しでも減らすために始めました。

Q どのように管理していますか？

A 牛舎を囲むように電気牧柵を張って管理しています。牛舎にも自由に出入りできます。

Q 冬に牛を外で飼っても大丈夫？

A 特に牛の体調など悪くなった印象はありません。草の上に寝たり、寄り添って寝たり、牛舎に入った。牛も自分たちで考えて行動しているようです。

Q やってみてよかった点は？

A 作業時間が約1/3になり非常に助かっています。

Q 難しい点は？

A 豪雪時の飲水の確保です。昨年は大雪によりパイプが外れてしまいました。今年は新たな対策を考案中です。

Q 今後の予定は？

A 冬場に使用する場所を確保し、増頭したいと思っています。

お問い合わせ先

- ▶ 中央農業改良普及センター県域普及グループ ☎ 0197-68-4435
- ▶ 中央農業改良普及センター軽米普及サブセンター ☎ 0195-47-1075
- ▶ 宮古農業改良普及センター岩泉普及サブセンター ☎ 0194-22-3115
- ▶ 岩手県農業研究センター畜産研究所外山畜産研究室 ☎ 019-681-5011
- ▶ 東北農業研究センター企画部産学連携室 ☎ 019-643-3414